

がんになる感染症について。

今回は、ワクチンが発売されて、注目が集まっている HPV (*Human papillomavirus*) のお話です。なんですかそれは？また、編集長好みのマニアックなやつなんやないの？と思っているあなた。あなたが、女性ならば、この号を読み終わって、あなたの無知を深く反省してください。

HPV は、性感染症で、子宮頸がんの原因ウイルスです。子宮頸がんは、若年女性に多く発生するがんであり、20~30 歳代の女性に発生する悪性腫瘍のうちで第 1 位を占めています。日本においては、現在年間 10,000 人以上が新たに子宮頸がん罹患し、約 3500 人が子宮頸がんで死亡すると推定されています。1950 年代から、子宮頸がんの検診が全国的に行なわれていて、進行がん患者の数は劇的に減少したということですが、若年女性における子宮頸がんの発生がむしろ増加する傾向があるとされています。

子宮頸がんの発生は、そのほとんどが HPV によるものだ、ということが、明らかになってきています。HPV には、現在までに 100 種類以上のタイプが知られており、そのうち約 15 種類が子宮頸がんの発生に関与しているとされています。この中でも、HPV 16 型、18 型の 2 つのタイプによる感染が最も頻度が高く、合わせて子宮頸がん全体の 60~70% 原因になっています。

HPV は性感染症ですので、性的接触によって感染しますが、感染自体がとてもありふれた現象であることが明らかになっており、全女性の 70~80% で一度は HPV に感染するとされています。一度はって、どういうこと？と思われる方がいると思います。発がん性の HPV も、感染しても多くの場合は一時的で、ウイルスは自然に排除されます。ただし、何度も感染したり、感染期間が長かったりすると、前がん病変（がんになる前の病変）を生じ、子宮頸がんへと進行するとされています。あれ、感染したら、抗体ができるんでは？と思ったあなた！素晴らしいです。しかし、発がん性の HPV は、獲得免疫ができづらく、何回も感染が繰り返されてしまうため、ワクチン接種が必要となるのです。

さて、女性のほとんどが一度は HPV に感染することが分かりました。さあ、どうしますか？子宮頸がんになりたくない→HPV ウイルスへの感染を防ぐ、とこうなります。ウイルス性疾患の対策は？いろいろ考えられますが、今回の場合はワクチン接種が有効である、と研究者たちは考えました。そこで、HPV 感染予防のワクチン (HPV ワクチン) の研究と開発が進められ、臨床応用が可能になり、2006 年に、まず米国での臨床使用が承認されています。現在では、世界中での 100 以上の国で HPV ワクチン接種が開始されており、先進国約 30 カ国でワクチン接種に対する公的支援が行なわれています。

さて、わが国ではどうでしょうか？ ①接種は可能なのか→ グラクソスミスクライン社のサーバリックスというワクチンが、2009 年 10 月に承認されています！ ②公的支援は？→自治体によるようです。編集長の知る限りでは、横須賀市、横浜市では、補助はないような。違っていたら、ご一報ください。ちなみに、3 回の接種が必要で、約 5 万円の費用となります。

さて、現在使用可能なこのワクチンは、HPV16 型と 18 型の感染を予防します。そう、子宮頸がんの 60~70% の原因になるタイプでしたね！これを、HPV に感染していない女

子に接種すると 16 型、18 型による前がん病変の発生をほぼ予防することができるということが証明されています。なので、諸外国では HPV に未感染で、かつ免疫力を獲得しやすいとされる、9～16 歳の女子に対して優先的にワクチンを接種することが推奨されています。

なんと、私 20 歳過ぎてるんですが（泣）という方が、読者の大部分だと思われます。成人女性についても（つまり感染の既往がある人でも）、ワクチン接種は有効だ、とするデータがあるため、45 歳以下の女性についてはワクチン接種が推奨されています（海外では）。

これで、子宮頸がんの危険性は去った、といたいところですが、実は日本人の子宮頸がんの原因としては HPV52 型、58 型が多いこと、ワクチンによる抗体も長期的には失われてしまうこと、などの問題点があります。もちろん、他の型による子宮頸がんの発生があるため、定期的な検診は欠かせません。

それでも、HPV ワクチン、素晴らしいとは思いませんか？がんの予防に 5 万円は高いでしょうか？

平成 22 年 5 月号 (第 28 号) より抜粋